

森林塾通信

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『通年コース第十七回開催報告「きのこ菌打ち」いろいろあった一年でした』

「昨年(2003)は前日から降り続く雪の中、一昨年はしょぼふる雨の中でした。しかし今年(2004)は、二日前の雪は残っているものの、少し春めいた暖かさを感じる陽気ななかで、きのこの菌打ちをすることができました。」

種駒を使ってシイタケとクリタケ、そしておが菌でナメコの植菌でした。原木は後藤、川島両インストラが用意してくれたひねたコナラ。でも八千回転のシイタケドリル



息を合わせて高速ドリルで駒穴をあける



誰も通らない道路に台を出してトントントン



2個1組でベタベタ、コナラのサンドイッチ

は楽々と駒穴を開け、シイタケ百二十本とクリタケ二十本を打つことができました。今、ホームセンターでもきのこの種駒は売っていますので、もし原木が手に入ったら(もちろんこれも売っていませんが)菌打ちを試してみたいかがでしょう。自家の庭でシイタケやナメコが収穫できたならこんな楽しい事はありませぬよ。もちろん少しの間はかかりますが、それは家庭菜園と同じことです。

そしてベタベタの菌打ちにはナメコのオガ菌を使って少し太い原木に。オガ菌は種駒に比べ、菌のまわりが早いので今秋の収穫が期待できます。ちょっと太目の原木の場合、二十センチくらいの長さには玉切って小口にオガ菌で菌打ちすれば、持ち運びも楽ですね。でも今回の相当太目の原木は乾燥不足なこともあってとても重く、仮伏せ場所に移すのに苦労しました。

ほだ化(原木に菌が回った状態)に成功したら、梅雨時に植菌面を上にして、半分地面に生めてください。場所は水はけ、風通しともに良く、湿度の高いところ。竹やぶやスギ林の中なんか良いです。

四月二十四日の第一回、植林から早いものでもう一年が経ってしまいました。金田さんのけがや、田中さんが地元で、森林作業に向かう途中に亡くなるなど、悲しい事もありました。

七回、皆勤賞。他の精勤の皆さんもお忙しいなかいろいろやりくりして本当に良くおいでくださいました。頭の下がる思いです。先生方もおっしゃっていましたが、これが終わりではなく、お付き合いの始めです。今後とも是非よろしくお願いいたします。



一心不乱、仕事が丁寧、完璧植菌

8時30分 山小屋集合。先生方のあいさつ、日程説明。「きのこ」はなにか、および菌打ちの方法説明。質疑応答が盛り上がるが、「打てばわかる」で早速

10時30分 種駒によるシイタケの植菌。品種は

通年コース第17回
3月5日(土)
きのこの菌打ち



本日の成果。水遣りを怠らない事

森産業の「にく丸」。星の数ほど(ちよつとオーバーかも)あるシイタケ品種の中で森林塾では、いつもこれ。自然状態での発生が期待でき、生でも乾しても使える優れもので、全国でもっとも使われている品種らしい。

穴あけ組、運搬組、駒打ち組とコンビネーションもよろしく一時間少しで百二十本の植菌が終わりました

11時40分 昼食

12時40分 クリタケの駒打ち開始。品種は大貫菌茸

のK3。十一月中過ぎに発生する晩成のクリタケです。先ほどのシイタケは6.2ミリの穴をあけましたがこちらは8.5ミリのビットを使う。メーカーによって駒の太さが違うのでややこしい。二十分もかからずに終わり、続いてオガ菌による短木への植菌。こぬかとオガ粉で七倍に増量し水を回して耳たぶくらいのやわらかさにする。二十センチくらいの長さで切ったコナラの短木でオガ菌をはさみ、サンドイツチづ



仙台からの皆勤賞。本当に本当にお疲れ様

2時30分 十六年度終了式開始。先生方の講評と終了証の授与。角田さん、笹

くり。間の「具」が多すぎると植菌面が乾く原因となるので薄く挟むのが望ましい。

この、オガ菌を使った植菌はバケツ、または洗面器などのほか道具が何にも要らないのがうれしい。

また菌のまわりが早いのでその年にきのこの発生を見る事ができる。太目の広葉樹が手に入ったらナメコやヒラタケ、エノキタケなどをオガ菌で打てば、もうその年には大量のきのこが手に入ること請け合い。ただし短木の場合はほど木の寿命が二丁三年と短い。

ペタペタ植菌も一時間ちよつとで終了し



東京トリオを代表して長老が皆勤賞

4時 終了

その後、山つくりの質問や疑問などの応答がありました。

参加者/江上さん、小野沢さん、角田さん、金田さん、小名川さん夫妻、佐々木さん、笹原さん、神保さん、杉村さん、平さん、増井さん、湯澤さん、園田さん、斎藤さん、長坂さん

原さん皆勤賞。お疲れ様でした。江上さん、佐々木さん、杉村さん、梶永さん、湯澤さんは一日だけ欠席、他の方も皆勤に近い精勤でした。有り難うございました。小野沢さんと平さんは最終回参加でぎりぎり精勤、お忙しいなか本当にお疲れ様でした。

講師/保科先生、鳥崎先生 スタッフ/大野、坂野、早川

この後、佐々木さんの幹事で「田中熙務さんを偲ぶ会」がまずヶ丘「猫の窯」で開かれました。東京から田中さんの奥様が甥子さんの運転で来てくださいました。イントラの後藤さん、川島さん、小泉さんも塾終了後に駆けつけてくれ、二十名を超す会となりました。

田中さんは今年の一月十八日(火)、あきる野市の遊歩道整備に、森林組合の臨時作業員として、朝、現場へ向かわれていました。急な登り坂の途中で胸を押さえて倒れたそうです。現場で応急処置を受けつつ、ヘリコプターで災害医療セン



去年は皆勤、今年は一回だけ欠席の精勤

ターへ搬送されましたが、既に心肺停止状態で、帰らぬ人となってしまいました。

十六回目まで皆勤で、最後のきのこ菌打ちを残すのみとなっていました。また、退職されて、さてこれから山や木にかかわる仕事をしよう、エコロジカルな生活をしよう、という取り組みを始められた矢先だっただけに、本人もさぞ無念だったろうと思います。ハスクバーナの濃いオレンジのヘルメットをかぶり、チェンソーをもった勇姿を私たちは忘れません。ご冥福をお祈りいたします。

そして会場「猫の窯」の大高さんご夫婦には無理を聞いていただき大感謝です。



ベテラン看護師で、気丈夫な奥様でした



その名の通りとんでるマスター

十七年度の森林塾

平成17年もKOA森林塾が開講します。11年間常勤で講師をして頂いていました保科先生と島崎先生は非常勤となられます。間伐、枝打ち等の実践に限り、講義していただく予定です。

通年コースは4月22日(金)の植林を皮切りに年間17日間で、おもに金、土の連続開催となります。二年目の方は各回参加が可能です。また三年目の方はOB参加



静岡の江上さんマグロ半身差し入れ



(日程限定の無料参加)の資格がありますので事務局までお問い合わせください。

九日間の専門コースの第一回開催は4月14日(木)16日(土)です。少し肌寒いかもしれませんが、とにかくまず、今年手始めの伐倒に挑戦です。また、森林塾のエキスが詰まった集中コース三日間は8月第一週と11月第一週の開催です。

今年から、企業、団体向けコースを充実させ、カリキュラムを組んでみました。また、無料体験コースも5月と7月に開催されますので詳しくは事務局まで。KOA(株)のホームページでもご覧いただけます。

きのこ栽培あれこれ

エノキダケ 左の写真は一昨年森林塾で植菌したほだ木から顔を出したエノキダケです。「えっ!!これがエノキダケ??」とお思いの方もいるでしょうが、これが正しいエノキダケの姿です。すき焼きや冬の鍋物に入れる、妙に自己主張の強い白いきのこは菌床でモヤシ状に栽培されたものです。

森林塾でコナラに植菌されたものは、傘は濃い茶色、大きさが十円玉から、ピンポン球くらいになります。2月から3月にかけて出てきますが、誰もこの時期にはほだ場を覗かないのでむなく朽ちていく場合も多い。味のほうはと言いますとこれがなんと栽培きのこの中では五つ星のおいしさです。味噌汁、煮物、油で炒めた料理と何でもござれで、とても良い味をだしてくれまます。シラカバ、ホオ、コシアブラなどの柔らかか系の原木が手に入ったら是非お奨めのきのこです。

まで色の変異も大変大きい。ヒラタケ 栽培されるきのこの品種は野生のもの、利用上の長所(おいしい、大きい、育てやすい等)を選びすぐつたものです。で、十分な環境で育ててやると時に巨大なものができます。

今年の正月開けに何気なく森林塾ほだ場を覗いてみたらフリスビー(ご存知かな?)くらい、直径25センチ近いヒラタケが雪の中から顔を出している。おそろく昨年末から出番を待っていたのだろうがまだ十分食べられそう。コチコチに凍っていて収穫に苦労しましたが一杯に。とある新年会に提供しましたが、味のほうはどうだったでしょうか。いわゆる大味だったかも。シイタケなんかも気づかないでいると、SP番レコード(古いなあ)くらいになってたりしますよね。



リレー通信

願わくば、田舎で農的な暮らしを
長岡 日出雄

いつも森林塾通信をお送り下さいます。読んで写真を見ると懐かしき当時の事が浮かびます。リレー通信欄の稿を読むたびしっかりと考えを持っていらつしやる参加者に驚かされます。

私は早川さんから投稿をうながされたためらいつつもつれづれなるままに書いています。ごかんべんを。

私は二〇〇四年の集中コースと通年コースの枝打ちに参加させていただきました。その節はありがとうございました。

森林塾通信によりまずとKOA森林塾は平成六年の開塾とありますのすぐに知ってはいいたんですね。資料をお願いした事を思い出しました。でも今回が初参加でちょうど十年目だったのですね。

私はサラリーマン暮らしですが土、日、祝日はほとんど休めない仕事です。それらにまたがって連続して休むのはきわめて難しいのです。でも参加したいと思いつけたかいてあって十年越しかたなつてとても嬉しかったです。

保科先生、島崎先生、川島先生、後藤先生、坂野先生、早川先生そして参加者の皆さん大変にお世話になりました。良い人達に恵まれてとても有意義にすごさせていただきました。

これで私も晴れてKOA森林塾の学び生としてずつとずつと誇っていきます。通信には保科先生、島崎先生から直接学べるのは私の参加した年度までとあり、その好運さに嬉しさもひとしおです。

私がいつ林業に惹かれるようになったのかは定かではないのですがそれは向こうからやってきてくれたのだと思います。昭和四十年頃あるいは五十年頃から六十年代だったと思うのですが「仲間の山」というグループに参加したのがきわめて具体的な林務作業にかかわる始まりだと思えます。東京都下の御岳山の近くをフィールドとしていました。除伐、間伐、枝打ち、地ごしらえ、



植林、下草刈り、つる切り、雪おこしなど林業のいろはを教わり、道具の使い方や手入れの仕方を身につけさせていただいたのです。地元である多摩地域の森林組合のプロの林業家を講師として、都庁の林務課の方々や林学の先生などの協力もあって手とり足とりといったかんじでいるはから林業を学べました。この時に林業への関心が深まり技術向上のおもしろさにも芽ばえていったと思います。

余談ですがこのフィールドで枝を打ちあげ、終えることと逆さになり、スルスルストーンと着地よろしいパフォーマンス、木から木へと飛びうつって枝打ちするということのような事をやってみせてもらえました。本当にびっくりでした。かの岐阜の山本氏をまだ知る前でした。近頃は西川材の産地でもあってその林業家を訪問して見学や交流し直接の指導も

していただき技術学習にはとても良い場でありました。こんな十余年があつて自分が今も林業の楽しさを感じているのだと思います。もつと日常の暮らしのタイムカプセルとしてなら幼き頃は薪や屑とかが主燃料の生活があります。煮炊きや風呂沸かしが新でした。山に肩はきに行ったりわら屋根の材料の萱も山から集めたりしたのです。その頃には見ようみまねでナタ、鎌、鋸も使い覚えたのです。そんな体験をした世代です。みんな当然の時代でした。

林業労働は3Kの代表のきつい仕事であります。本業とされている方にとって大変な時代だと思えます。申し訳なく思うのですが時代の巡りあわせは私のようなものにとつては好運なのかとも言えます。日常の仕事のストレスから離れて楽しみとしてレジャーとしても楽しみあえるそんな林業とのかわりが許していただける時代なのです。それがしかも健全な森づくりの手助けとなると思うとありがたいです。枝を打ち終ったあとに見る森の気持ちの良いこと、間伐

の仕上がった山の美しいこと、伐倒で自分の思ったポイントにびたりと収まった時の喜ばしさなどなどとてもいいものです。そんな人たちが集まってお昼を食べる時間も楽しいですよ。そのような事ができる時代と思えます。

そんな人達が手を取りあつて入れる山やフィールドがいつぱいであればいいし互いに技術の向上を目ざせるなら本当にいいと思えます。そついった志を持った人、本当にプロ的林業家を目指す人それぞれにとつて学ぶ場はずつとずっと必要であると思つてます。KOA森林塾のようなすぐれた先生やスタッフのそろつた場、学びの機会は欠かせないと思えます。今後も益々輝きつづけてと願っています。私は短期間でしたけどここで学べて本当に良かったです。今思っているのはいつもの事ながら参加者の方ともつともつとお話をいっぱいしておけばなと思つています。いつもながら話の輪の中へ入つてゆくのが苦手なもので話の外側に居ることが多くて残念です。

私は主に楽しみで参加してましたが参加された皆さんは目的をしっかりと持っていて感心してしまいました。私はこれからも林業に何らかにしてかかわっていくつもりでいます。願わくば田舎暮らし農的な暮らしをできたらとも思いつつ生きてみようと思つてます。休みの都合がつけば皆さんの山やフィールドへ行つて学べたらと思つたりしています。呼んでください。先生方をはじめ参加者の皆さん本当に有り難うございました。お世話になりました。皆さんの今後のご健康とご活躍を願っています。

コラム

今年の冬は正月にまとまつた雪となつたものの、以後はたいして降らず、もう三月に入つてしまいました。これからは降つてもすぐに融けてしまうので生活に影響はありません。それに、このころ日増しに暖かくなつており、春の気配がしてきました。

そんな中、プロ野球もオーブン戦が始まり、今年からは楽天とソフトバンクの新球団の名が目につくようになりました。時代の流れでしょうが、ライブドアも含め、いずれもインターネット関連企業、加えて若い経営者といつのもおもしろいところですね。

この地域にムササビが生息する事は鳥崎先生から聞いていたのでそれかと思つたのですが「俺もそう思つたんだけど、兄貴に聞いたらモモンガだつて」お兄さんは松本大学教授の繁明さん、園芸の先生なのですが、こますみヶ丘平地林の動物や昆虫の写真集も出す写真家でもある、平地林の生き字引。小屋のすぐ横のサワラの木に、チェーンソーの騒音にめげずにそんな動物が生息していたなんてびっくりです。そのサワラを倒したあ

と、枝の下に隠れているモモンガに気づいた建石さん、りんごや野菜クズを置いておいたらしばらくの間、特にりんごはきれいに食べていたらしい。何日かして、炭焼き小屋の東側のヒノキ林に逃げ去つたそうです。

おわりに

鳥崎先生の山小屋の地主さん、「NHKの地球・ふしぎ大自然」にも出演された八手博士の建石洋一さんがこの冬、小屋横のヒノキ、サワラ林の間伐をされています。きのこの仮伏せ用に使うヒノキの枝葉をもらいに行つたら、倒したサワラの枝の下にあるおかつぱ頭様の物体を指差し、「これなんだかわかる？」大きさはメロンパン大、材料はサワラの樹皮らしい。

「美味いらしいですね」と聞いたらあきれた顔をされてしまいました。インターネットで調べてみると、「ニホンモモンガ、体長15〜20センチ夜行性、長野県では天然記念物」とありました。

さてこの一年いろいろありました。終わつてみるとあつという間。有り難うございました。十七年度もよろしくお願いたします。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp